
ありきたりな物語。

anyu.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありきたりな物語。

【Nコード】

N1876P

【作者名】

anyu.

【あらすじ】

これは日常に溢れたありきたりな物語。ありえない物語であつてもありえない本人にとっては、ありきたりな日常なのだ。

昔々、仲のいい兄妹がいました。

「にーさまにーさま、もうにーナ飽きちゃった」

「そうだね、ここらへんは全て遊んでしまったからね」

柔らかく、薫るような蜂蜜色の髪。

そして煌くグリーンの瞳を持つ愛らしい兄妹でした。

「にーナ、それじゃああそこの魔王のお城に行こう」

「まあそれは素敵ね、ここの魔物弱いんだもの、つまんない」

そう、愛らしい…兄妹…

「にーさま、その前にこれ、食べれないかしら？」

「うーん、見た目が牛っぽいからステーキにでもしてみるかい？」

あ…あいらし…い…？

「それならこの剣をきちんと手入れして、食べやすいようにきらな
いとだめね」

「ああ、僕も杖を磨いて焼く準備をしなければね」

そついつて取り出したるは真っ赤な剣と杖。

言わずもがな元より真っ赤だったわけではない。

…。

愛らしいなどいえるか!!!

えーさて2人はミノタウロスをステーキにして食し、荷造りをしています。

「にーさま、これはいるかしら？」

「小腹がすくかもしれないからね、ただしバナナはおやつに入りません」

「はぁーい、にーさま」

「ああ、それと遊びに行くんだ、菓子折りは忘れちゃだめだよ」

鼻歌交じりで荷を詰める2人。

その中身は水筒やシート、さまざまだ。

「わかりましたわ、でもお菓子なんてないし…さっきのあれでいいでしょう？」

「うん、あれはなかなかいいものだと思うよ」

遠足にでもいくような軽い足取りで魔王のすむ城に向かっていき、

息をするかのように次々魔物を倒していきました。

その中に剣士、魔法使い、僧侶、盗賊の4人メンバーの人間がいたような気もしますが

2人は気にしません。

ただただ息をしながら、歩いて行ったただけのこと。
後ろが赤い道に染まるうとも。

そしてたどり着いた王座。

そこにはこれまでの魔物と比較できないほどの威圧感と魔力が溢れ

ています。

「よくきたな、人間共。4人でできていると聞いていたが、他の2人は息絶えたのか？」

ふっ、勇者といえどただの人間だな。すぐ仲間の下へ逝かせてやる!!」

そう言うや否や、手に魔力を集める。

そのエネルギーの塊が2人に放たれた!!

かと思いきや、それは空気に霧散され、残るは正常な空気。否、血なまぐさい匂いのみ。

…ここまで匂ってきたか。既に生存者はいまい。

「なぜだ!?まさか無効化したのか!?私の術を!」

「はい、無断で家の中央まで入ったこと。それに関しての怒りは最もでしょう。」

なので菓子折りをもって、挨拶に参りました」

菓子折り。

「そうなの。でもね、お菓子なんて売ってないから、これ!」

そう手渡された布で包まれた荷物。かなりの大きさだ。

それをゆっくり開ける。

時間が止まった。ざ・わーるど。

「とれたてほやほやですわ」

そう円満の笑みで答えられても、これは。

「食べようかとも思ったんだけどね、ぜひお土産にと」

これ、は——…。

「気に入ってくれました？きつと栄養抜群ですわ」

これ、は…ミノタウロスの。。。。（ピーー）——！！！！

「まさか、身体は・・・！？」

「美味しくいただきました」

「！！！？」

・・・。

「ははは…、2人には悪いが、朝から腹の調子が悪くてね、少々お手洗いに言ってもいいか？」

「あら、そうなんですの？悪いときにお邪魔しちゃって」

「それならどうぞ。腹痛とあっては遊んでももらえないからね」

「ははは、では失礼する」

もちろんその後、魔王が戻ることはなかった。

え、私？新しいあるバイト中だ！！現在元魔王職探し中、世路死苦
！！

（後書き）

息抜きに書きました。

考える話はシリアスダークなんだけど、

本人のノリがこんなのなのでうまく書けない。

楽しかった！！

公開したけど後悔はしてない！！

寒い？冬だもの！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1876p/>

ありきたりな物語。

2011年1月25日22時14分発行